【学校通信】　令和3年3月16日
第43号

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長
大西　規之

卒業証書授与式を挙行しました

３月１１日（木）に、素晴らしい天気のもと、第７２回卒業証書授与式を挙行しました。今年も昨年同様、新型コロナウイルスの関係により、在校生とご来賓の皆さま抜きで、内容も簡略化して行われました。今年は、送辞と答辞は行うことができましたが、歌は式場では歌えないため、国歌、校歌、式歌を事前に録画し、その映像を流しました。１５３名の卒業生が担任からの呼名に対して立派に「はい」と返事をした後、校長から各クラスの代表者に卒業証書が手渡されました。涙なみだの素晴らしい卒業式でした。立派に巣立った卒業生の皆さんに幸多きことを願います。

さて、在校生の皆さんが卒業式に参列できませんでしたので、本号から３号にわたって校長式辞、送辞、答辞を紹介したいと思います。式に出席しているつもりで読んでほしいと思います。２年生は来年、１年生は再来年に卒業していきます。それまでの間、先輩から引き継いだ伝統を守り、そして発展させ、素晴らしい西中学校を作り上げてほしいと思います。

校長式辞

日増しに暖かくなり、早春の息吹を感じる、この佳き日に、伊丹市立西中学校「第７２回卒業証書授与式」を、この様に挙行できますことを、たいへんうれしく思います。

昨年同様今年も、新型コロナウイルス感染予防のため、参加者の制限や内容を簡略化した式とはなりましたが、この様に挙行することができ、本当にありがたいことだと思います。先ほど、４名の代表者にだけではありますが、私から卒業証書を手渡すことができ、たいへん幸せに感じているところです。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。長年のご労苦に対しまして、改めて敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。また、本日は、新型コロナウイルス感染防止につきまして、ご理解とご協力をいただきましたことに感謝いたします。

さて、１５３名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。ただいまの卒業証書は、中学校の全課程を、そして同時に、義務教育を修了した証明でもあります。この長い間、皆さんを今まで支えてくださった保護者の方をはじめ、全ての方々に感謝の心を持ってほしいと思います。

私は、皆さんの入学から本日の卒業までの３年間、西中学校で一緒に過ごしてきました。ですから、私にとっては、たいへん思い入れのある学年であり、生徒です。今、こうして向かい合うと、思い出とともに、皆さんの確かな成長を感じることができます。

例年であれば、ここで行事について触れるのですが、残念ながら、皆さんの今年１年間の大きな行事は、新型コロナウイルスの影響で、全て中止となりました。今でも残念に思うのは、皆さんと一緒に修学旅行へ行けなかったことです。６月にグランドで私から、修学旅行中止の報告したとき、表情には出しませんでしたが、教室へ帰る時の皆さんの後ろ姿には、「落胆」した気持ちが表れていました。今でもその時の光景が脳裏を横切り、本当につらかったことを思い出します。もし行っていれば、皆さんの素晴らしい行動から、地元九州の人たちから、たくさんのお褒めの言葉を、いただけていたと思います。私が一緒に行ったこれまでの先輩方は、「久しぶりに中学生らしい中学生と接することができた」とか、「九州に移住してほしいくらいだ」などの言葉をいただきました。また、「大地讃頌」の合唱を聞かれたバスガイドさんが、感動のあまり号泣されたり、外国の方から、「グッド」と言ってもらったりもしました。もし行っていれば、確実に皆さんは、様々な場所でそれ以上の評価を得ていたことだと思います。本当に残念です。

さて、行われた行事を振り返ってみますと、ま

ず、１年生の時の林間学校があります。私も引率者の１人として一緒に行きましたが、その３日間には、キャンプファイヤーやオリエンテーリング、魚つかみにいちご狩り、盛りだくさんの行事が組み込まれていました。その中で私が驚いたことは、皆さんの集団行動の素晴らしさです。私も長い間教師をしてきましたが、その長い経験の中でもピカイチの集団でした。時間までに集合できる。私語をせず、集中して話を聞くことができるなど、指導することがないくらいの素晴らしさでした。校区内の４つの小学校から集まり、中学１年生という集団となって、まだ２ヶ月程でした。そのような中で、「すでにここまで集団行動ができるんだ」という感動と驚きの１年生でした。３日間のスケジュールを終え、学校へ帰って来ての閉校式では、私は次のようなことを言いました。「皆さんの行動は本当に素晴らしかったです。西中学校の伝統を塗り替えるくらいの実力があります。期待しています」と。

さて、西中学校にはこれまでの先輩方が築いてきた素晴らしい伝統がたくさんあります。行事で言えば、体育大会での行進、大会役員や選手のきびきびとした動き、文化祭での、感動のあまり聞く人に涙を誘う合唱などです。皆さんが３年生になって、行事をとおして下級生たちに、その伝統を引き継いでくれるものと信じていました。いや、引き継ぐだけでなく、新たな西中学校の伝統を、作り上げてくれるものと思っていました。しかし、それも、新型コロナウイルスの関係で、行事が無くなり、叶わなくなってしまいました。

そのような中で、行われたのが代替行事でした。夏に、クラスごとに、男女一緒になって考えた創作ダンス。合唱コンクールの代わりにグランドで歌った「ふるさと」。今日は出席していませんが、下級生たちは、確かに皆さんのすごさを、感じとったと思います。各行事の後の、２年生の感想には、ダンス発表会について、「何よりも良かったのがとても楽しそうに演技をしておられました。自分が３年生になった時、同じように楽しく踊りたいです」とか、「見ている途中で『すげ～』と１０回くらい言ってしまうほどダンスに感動しました」など、また、「ふるさと」の合唱では、「３年生からは、いろいろとすごさを実感させられました」などがありました。特に、「ふるさと」の合唱では、各学年で互いに聞き合ったからこそ、改めて３年生のうまさ、きれいさ、すごさがよくわかりました。

こうした行事での３年生の姿は、本校の伝統を立派に引き継ぎ、１、２年生に、「私たちもあんな３年生になりたい」という、あこがれと目標を与えてくれたことと思います。本当にありがとうございました。

また、学習の遅れを取り戻すために、行事がなくなっただけではなく、夏休みや冬休みなどの長期休業が短縮され、７校時授業が行われるなど、ストレス一杯の学校生活を、明るさを忘れず、真面目に粛々と送った皆さんを本当に誇りに思います。

まだまだ、皆さんと一緒に過ごしたいとは思いますが、ここに立派に卒業し、それぞれの道を歩むみなさんに、最後のお願いをしたいと思います。

それは、「たくさん失敗して、たくさん学んでください」ということです。

我々が生まれたときに、マニュアルとして、「失敗をしない方法」という本をもらっていれば、とても役に立ったと思います。しかし、そのような本は未だに本屋さんで売っていません。このような本がもしあれば、私も失敗をせず、今よりはもっと幸せな人生を送れていたのではないかと思います。しかしながら、そのような本がないため、私たちは数え切れないほどの失敗をします。時には、ひどい失望を感じるような失敗すら、してしまうことがあります。そのような失意のどん底にあるとき、私たちは、たいへん重要なことに気づかずにいます。それは、「失敗は、学ぶためになくてはならないもの」だということです。なぜなら、失敗する度に、「次は同じ失敗を繰り返さなぞ」と、間違った解決方法が１つずつ消えていき、逆に、正しい解決方法が手に入ってくるからです。これからは、「自分は失敗してもいいんだ」というくらいに、考え方を変えてみてはどうでしょうか。そうすれば、いろいろな技能が身につき、成功の可能性がぐんと高くなるはずです。

最後に、次の言葉を、はなむけとして皆さんに送ります。

「すべての失敗は、学ぶための絶好の機会である。そう考えることが賢明な態度だ」

卒業生の皆さんの「輝かしい未来」と「生涯にわたっての健康と幸せ」を心から祈っています。また、本日ここにお集まりのすべての皆様のご多幸を祈念いたしまして、式辞といたします。

ホームページを日々
更新中！！